

全正法のみなさん

正法 二年一組

とりわけ、一・二年のみなさん

私たちが二年一組は、6月22日の学苑会学生大会へ向けて、クラスで話し合いを行い、次の項目を決議しましたので、ここに表明するとともに、クラス討論を呼びかけます。

一、明大当局(総長理事等)への即時・無条件団交要求。

二、学生会館・四号館のロックアウト即時・無条件解放せよ。

三、学費値上白紙撤回。

四、正部改廃絶対反対。

(1973年6月14日
132番教室にて決議しました)

現在、学内は一見、平穏そうに見えています。しかしながら、私たちの心の中には、何か判り切れないものがありませんか。そして、大当局面への不信感か……。

昨年、六月二七日、学苑会による当局との団交を、総長は、「現在、学費値上は考えていない。学費値上は学生と話し合って決める」と、多数の学生、教職員の前で言明しました。しかし、九月二日、

明大中野南校での、法学部教授会への説明をめぐりに、着々と学費値上の準備をして行きました。そして、七月一日、全明治の教職員を員外、学費値上の説明を行おうとし、それを遂行しに行つた学生を暴言、暴行しました。(事前連絡のもとに……)

この日を境に、長い「ロックアウト」が繰りまわりました。その間当局は、学生に対して、一度も誠意ある話し合いをしようとはしませんでした。常に、一方的に学校の愚解を述べ、学生の意見、批判には、一切聞こうとはせず、ついに機動隊に守られて入試を強行しました。

六月、いせんとして当局は、話し合おうとはしていません。それはかりか、学生の当然の権利であるサークル活動も、学館、四号館をコンクリートで固め、押しつぶされようとしています。長年に渡る多数の研究成果、大切な物品をも、私たちが奪い去りました。

一方、学費値上の強行により、次に予定されるのは、正部改廃です。一年生の定員が、法学部だけでも百名を減り、政経、商学部では、クラス数が減っています。皮肉にも、学費値上により向上する用大の教育水準が、正部改廃とは……。

多分、私たちの意見に反対の方も多いと思います。「大学が、私たちを拒絶するわけがない」と。確かに、教授、理事に聞けば、「そんなことあるはずがない」と言うだろう。それでは、彼らは学費値上の時何と言っていたか。「そんなことあるはずがない」とは言っていたのか、たか？

もし、当局を信じざるを得ないならば、団交を断るべきではないのか。

また、六月に渡るロックアウトの責任は、どうするのか。
当局に誠意があるならば、私たちが考えよう。しかし、当局が団交に応じなければ、みんなの団結で、当局を連れ出そう。そして話し合おうではありませんか。解決するたのみに……。